



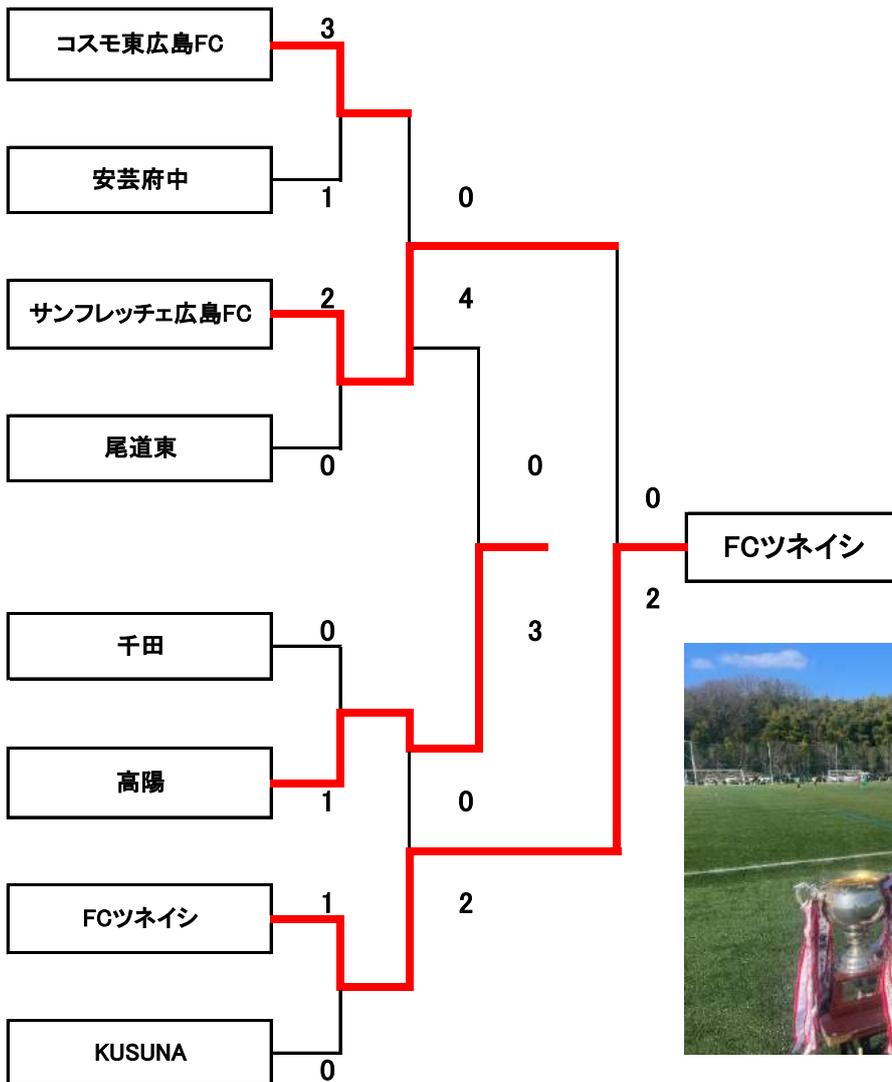
広島ジュニアサッカーニュース

2024年 2月 JSN122号 広島県サッカー協会第4種委員会広報部

第4回 U-11広島ミカサチャレンジカップ

2月11日(日)と12日(月・祝)、ツネイシフィールドで開催された『第4回 U-11広島ミカサチャレンジカップ』では、予選を突破した16チームが激しい戦いを展開しました。優勝はFCツネイシ。準決勝に進出した4チームは、4月に広島県で開催される中国ユースサッカー joyful大会への出場権を獲得しました。活躍に期待しています！

《決勝トーナメント》



《決勝戦》 FCツネイシ vs サンフレッチェ広島

開始早々、ツネイシ1番が中央からのドリブル突破から冷静にシュートし、ゴール。その後もツネイシはドリブルと個の技術でリズムを作る。

キーパーからのビルドアップでボールを運びながらゴールに向かいリズムを作ろうとするサンフレだったが、ツネイシも激しいディフェンスで頑張る。前半10分ツネイシの1番がサイドでボールを受けて、ゴール前にドリブルで切り込んでからのゴールで2点目。

2ピリオドはサンフレのがシュートを放つが、ツネイシ1番がキーパーとして相手のシュートを何本も好セーブし3ピリオドに。

3ピリオドは激しい球際の攻防もあり、見応えのあるゲームを展開。サンフレはゴール前までボールを運ぶものの、ツネイシのアプローチの速さ、守備の意識が高く、ゴールを奪う事ができない。1ピリオドに奪った2点を守り切ったツネイシがら2-0で勝利した。



《準決勝》 FCツネイシ vs 高陽

準決勝、ツネイシ対高陽の一戦では、お互いが激しくボールを奪い合う気迫あふれるプレーが目立った。

1ピリオド、9分、ツネイシの1番が前線でボールを奪い、そのままミドルシュートを放つ。見事にゴール左サイドネットに突き刺さり、ツネイシが先制点を挙げる。

2ピリオドでは、高陽がトップの6番にボールを集めてチャンスを作る展開が続く。一方、ツネイシは繋げるサッカーで攻めを展開。お互いにチャンスはあったが、得点には結びつかず。

3ピリオド、開始早々、ツネイシの5番が中央をドリブル突破したが、高陽のDFに阻まれる。しかし、溢れたボールをツネイシの7番が左足で受け、ミドルシュートを決める！ゴール右サイドネットに突き刺さり、追加点を奪った。

その後も激しい戦いが続き、最終的にツネイシが勝利を取めた。



《準決勝》 サンフレッチェ広島 vs コスモ東広島

昨年同様の準決勝のカードは、サンフレがボールを支配し、押し込む展開が続いた。1ピリオドの開始早々、19番がサイドから切り込んでセンターリングを上げ、23番がゴール前に飛び込み、PKを獲得。冷静に決めて先制点を挙げた。その数分後、19番がボールを奪い、23番がゴール前で合わせて2点目を決めた。1ピリオドはサンフレがボールを回しながらゴールに迫る場面が多く、2-0で終了。

2ピリオドでは、コスモの45番や54番を中心に攻める場面もあったが、サンフレの堅固な守備を崩せず、得点はできず。3ピリオドでは、さらにサンフレが攻勢を強め、18番のコーナーキックから13番がゴール前でヘッドで合わせて3点目を挙げる。その数分後、16番のクロスに17番が合わせて追加点を奪った。コスモはゴールが遠く、サンフレの守備を崩すことができず、3ピリが終了し、サンフレが勝利した。



表彰式

優勝 FCツネイシ



準優勝 サンフレッチェ広島



3位 高陽



4位 コスモ東広島



ウェルフェアオフィサーからの一言

第4回 U-11広島ミカサチャレンジカップを拝見させていただきました。

県内各6支部の激しい予選を通過して来られた代表チーム同士の対戦は、どの試合に於いてもレベルやプレー強度が高く、とても見応えがありました。

選手たちは支部代表としての誇りや責任感を胸に、また日頃のトレーニングの成果を発揮しようと、必死になってボールを追い掛ける姿が垣間見え、とても清々しい気持ちになりました。

今大会を迎えるに当たり、「選手たちに少しでも良いサッカーの環境を」と、ご尽力されている様子がひしひしと伝わって参りました。

事前の準備から大会当日の運営・後片付け等、大変にお世話になりました。

サッカーの情熱が多く凝縮された2日間。

本当に素晴らしき大会であったと、心より感謝申し上げます。

暖かな気候にも恵まれた今大会。

晴れの県大会を盛り上げる各チームのサポーターの皆さんの大きな声援や温かな拍手。

きっと、その応援は選手たちの心に届き、パワーとなって選手たちを後押ししていたはずで

す。サッカーだけに留まらず、日常生活においても選手たちへの愛情溢れるサポート、ありがとうございます。

2日間を通じて感じた、ウェルフェアオフィサーとしての感想です。

MWOとして試合を間近で拝見しますと、様々な声が耳に入ってきます。

選手の声、指導者・スタッフの声、サポーター(保護者)の声。

その言葉の多くがポジティブで、選手たちを鼓舞し、前向きにするような内容でした。

ただ、少なからずそうではない言葉が聞かれたのも事実です。

また、今大会は3ピリオド制や競技者数(1.同じ選手が3ピリオド連続して出場することはできない

2. 全員必ず1ピリオド以上プレーする)と、非常に特異なレギュレーションであります。

関わるスタッフの方々、特にベンチ入りする指導者の方に関しましては、大会規定はもちろんのこと、事前の提出書類(選手名、選手登録番号、ユニフォームの色等)には細心の注意を払っていただきたいと思

～リスペクト宣言「大切に思うこと」～

日本サッカー協会は2008年度より、サッカー界におけるリスペクトの重要性を認識し、リスペクトプロジェクトを開始しています。リスペクトの本質は、常に全力を尽くしてプレーすること＝フェアプレーの原点。

仲間、対戦相手、審判、指導者、用具、施設、保護者、大会関係者、サポーター、“競技規則”、サッカーというゲームの精神・・・それらサッカーを取り巻くあらゆる関係の中でとらえていきたいと考え、「大切に思うこと」としています。

サッカーは競技スポーツである以上、そこには勝ち負けが生じます。

「勝って嬉しい、負けて悔しい」

いくつになっても忘れてはいけない、サッカー競技の根底に流れる精神であると考えます。

ただ、同時にその根底に敷かれているのは、みんなが守るべき「ルール」です。

サッカーの起源を辿ると、ヨーロッパに於いてバイオレンスにボールを奪い合うような「争い」の時代があったそうです(ケガや流血は当たり前で、時には死者が出てしまうことも・・・)。

その後、何年何年も掛けてルール作り(競技規則)を進めていきました。

私がサッカーを始めた頃、「ルールを知らなきゃ、試合に勝てない、出られない」という題名の教則本を購入してもらったことを、ふと思い出しました。

正にこれに尽きると思います。

ルールやマナーを守り、関わるすべてにリスペクトの気持ちを忘れず、フェアで逞しいプレーが多く観られるよう、今後も微力ながらウェルフェアオフィサーとして大会に携わらせて頂きたいです。

福山支部 WO部 井上